

題名 ストーンヘンジはアトランティスの模型である

序

ストーンヘンジとプラトンが残したアトランティスの記録に関連が有る事を発見した。

本文

プラトンの記録を元に有名な3重の環状運河の同心円を書き、Google earth を利用してストーンヘンジに重ねた。すると驚くべき一致を見せた。(図1)



図1 (プラトンの記述と発掘画像は Wikipediaより引用)

現在の地形でははっきりしないが、発掘されたサークル跡とアトランティスの3つの円(Φ1~Φ3)が完全に一致している。空堀の外側の円(Φ4)もほぼ一致している。5番目の円(Φ5)は、ヒールストーン(Heel stone)と一致している。ヒールストーンはアベニュー方向(図の真上)に有り、環状運河に架かっていた橋の付け根という重要な位置にあたる。同様にスローターストーン(Slaughter stone)も、橋の付け根の位置にあたる。

る。一番外側の6番目の円(Φ6)は、牧場とストーンヘンジ遺跡の境界と一致しているようである。

Google earth を使って内側から4つの円(Φ1~Φ4)の寸法を測定してみると、ストーンヘンジはアトランティスの環状運河の正確に1/24スケールになっており、誤差は3パーセント以下だった。24という数字に偶然ではない強い意図を感じる。

プラトンによれば中心島にはアクロポリス(台地)があり、そこには神殿が建っていた。ストーンヘンジにも、中央部(Φ1の内側)には環状列石と巨石が存在しており、神殿と似た印象がある。また内側から2番目の環状運河の部分(Φ3~Φ4の間)は空堀であり、この部分も立体的に類似している。

ストーンヘンジとアトランティスは、平面図が一致しただけでなく、構造的に見ても強い類似がある。

結論

ストーンヘンジはアトランティスをモデルに作られた、1/24スケールの構造物だった可能性が極めて高い。ストーンヘンジを含む広範囲な一帯が、当時の世界を表した立体地図だった可能性も高く、丘や溝は地形を、石はアクロポリスや神殿や城門など重要な物を表していると考えられる。

これはアトランティスの実在を強く示唆する証拠の発見であり、人類史の大転換に繋がるだろう。

なおこの発見は2ch.netで数年に渡り拘り続け書き込んだ末に生まれた物である。

2011年11月22日(小修正2011.12.9)

SHOJI Yoshinori

exa@pipi.jp

<http://www.pipi.jp/~exa/>